

2. 神戸シルバー大学院(SGS)

－ 持続可能な仕組みと20年の歩み －

SGSは令和5年(2023年)4月で20周年を迎える。発足当初のメンバーの皆さまはこのような長期に亘ってSGSが存続し続けることを予想していただろうか。SGSが持続可能な理由はその運営の仕組みにあり、連綿と受け継がれてきたからに他ならない。その概要とこの10年間の主な変革の歩みを以下に記す。

2-1. 当初の10年の歩みとSGS運営の基本的な仕組み

SGSは平成15年(2003年)4月に発足した。当初は3年制の予定であったが、3年修了時に更なる学習機会の要望が強く、続く3年の後期が設けられ、更に2年の専科が設けられた。合わせて8年間の在籍が可能である。発足から10年間で運営の基本的な仕組みはほぼ出来上がっていた。その概要は以下の通りである。

- ・SGSは保田 茂学長の指導の下、前期3年、後期3年そして専科2年の各学年に在籍する学生で構成されている。入学資格は神戸市シルバーカレッジの卒業生である。
- ・SGSの運営経費は全て入学金(2500円)と授業料(2500円/月)で賄われている。なお、専科の授業料は2023年度から1000円/月となった。
- ・SGSの運営に関わる意思決定は在校生から選任された役員による理事会で行われる。理事長は3回生の理事から選ばれ、副理事長が前期、後期から各1名選任される。主な役割として総務・企画・広報・会計があり、前期の理事が役割を分担し2回生がそれぞれの役割を統括するリーダーとなり運営の中心的役割を果たす。
- ・学習場所は主に兵庫県民会館を利用しており、学生が分担して部屋の予約を行っている。
- ・学習は月に2回となっており、第1水曜日は前期・後期に分かれて学長講義、第3水曜日は外部講師による講義、もしくは自主的な研究活動報告や行事に充てられる。
- ・講義以外に校外学習が年に2回行われる。農山漁村及び関連施設や環境関連施設の見学、交流などを日帰り研修、1泊研修の形で実施している。
- ・SGSは自主的な研究活動も行っており、個人またはグループで活動し、その成果を外部発表会ならびに卒業論文などで発信している。
- ・企画担当の役員が学習および活動の年間計画を策定し、理事会での審議を経て毎年4月に開催される新入生を交えたSGSの総会で説明、承認され共有化されて当該年度の活動がスタートする。

当初の10年(2003年～2013年)のあゆみは詳細を10周年記念誌に譲ることとする。

2-2. この10年(2013年～2023年)の歩み

(1) 情報環境整備の進展

インターネットの普及により情報伝達や発信の手段としてホームページ(以下HP)が多用されている。SGSでは11期生の**大野一雄氏**が入学されてからHPの構築が促進され、SGSの活動

を世間に紹介すると共に関係者への情報伝達に活用されてきた。しかしながら、経費節約の観点からHPのデータを保存するサーバーとして無料のサーバーを利用していたため、データ容量サイズが小さく、研究成果である論文の掲載などが出来ないことやメンテナンスを行う上で制約があった。

2019年3月、長年に亘りHPの運用・保守に携わって来られた大野一雄氏が卒業を迎え、その業務を引き継ぐことになり、HP管理WG（ワーキンググループ）を設け対応した。16期生の雑喉 良氏の参画により上述の問題点が明確になり、今後のHP活用の方向性を検討する中でデータ容量を増やし、SGSの資産と言っても過言ではない研究報告書の全文掲載を意図して有料のサーバー利用を決めた。その結果、更新されたHPのURLは下記の通りである。

<http://kobesgs.xsrv.jp>

HPの更新は成ったが、そのメンテナンスを行える人の問題が出てきた。作業は機械的な作業の繰り返しなのであるが、パソコンに不慣れな人には難しく感じられる様で、日々、或いは週ごとの更新が難しい状況が分かった。そこで、SGSの関係者への情報伝達手段としてより簡便なやり方としてFacebookの利用が検討され、2021年から運用が開始されている。YahooやGoogleで神戸シルバー大学院を検索し閲覧することが出来る。

(2) 副学長の招聘

2018年初春、持病を持たれた保田 茂学長から何かあった際に、大学院の講義計画の相談にのってもらうこと、特別講義を年に2回お願いすることを前提として、兵庫大学名誉教授の池本廣希氏をSGSの副学長に推薦する旨の申し入れがあった。ご高齢になられた学長の体調に配慮し、理事会は池本廣希氏の副学長就任を了承し、2018年6月から就任頂くことになった。以後、年2回の副学長講義に加え、内部研究発表会、外部研究発表会、校外研修や入学式・卒業式などの行事にも参加頂きSGSにはなくてはならない存在となっている。

池本廣希副学長のご専門は“ため池”であり、特に播磨地域でため池が果たしてきた役割やため池保全の重要性をご教示頂き、身近な問題への気づきや理解を深める機会を頂いている。

<池本廣希副学長の紹介>

兵庫大学名誉教授

いなみ野ため池ミュージアム運営協議会副会長

ひょうごの食研究会幹事。

専門は環境経済学、農業経済学、食料経済学。

1947年、鳥取県倉吉市生まれ。千歯抜き発案者の末裔。

神戸大学農学部卒業。九州大学大学院農政経済学科博士課程単位取得修了。大学院生の頃、保田茂先生に連れ立ってテントを担いで全国の有機農業の実践農家を訪問した。

ため池を中心とした地域問題、米問題、環境問題、食の安全・安心の問題等にかかわる

著書：「生命系の経済学を求めて—もうひとつの環境経済論」新泉社（1998/10）

「地産地消の経済学 生命系の世界からみた環境と経済」新泉社（2008/4/28）



(3) 学習分野の拡大

SGSは神戸市シルバーカレッジの生活環境コースで食環境を対象としたグループ研究を行っていた方々によって2003年に立ち上げられた。従って、学習テーマやグループ研究のテーマも“食と農”に関連するものが主体となっていた。

時の経過に伴い、SGSに入学する人たちの出身コースも生活環境のみならず、国際交流コース健康福祉コース、総合芸術コースへと拡がり、その関心も多様性に富んで来た。それは授業や研究テーマの多様化にも反映され特別授業に新エネルギー関連の専門家を招いたり、校外研修でも環境やエネルギー関連施設の見学も織り込まれるようになった。また、研究テーマの中には外国人との共生に取り組む事例も現れた。具体的な内容は後段の特別講義の概要、研究テーマや研修旅行の記録の項でご覧頂きたい。

(4) 学外への研究成果発表と交流

SGSでは数年に亘って研究を続けるグループ研究に取り組んでいる。そして、その成果を毎年12月に催す外部研究発表会で公開し発信している。その内容はHPやFacebookでも公開している。発表に使用したプレゼン資料だけでなく、成果をまとめた研究報告書もHPに掲載し活用を図っている。

2018年度に理事長を務められた14期生の長浜速雄氏が起案され、平成30年(2018年)10月7日に開催された兵庫自治学会研究発表大会で、14・15期生の研究グループ“もったいない”が「日本の食品ロス問題」をテーマに発表し、特別賞を受賞する快挙を果たした。翌年も参加を予定していたが、台風19号の接近で大会が中止となった。令和3年(2021年)に再び14期生の研究グループ“いばしょ”が「日本の子どもの貧困に関する研究」をテーマに発表し、特別賞を受賞した。

2019年7月には長浜氏の紹介により、大阪シニア自然大学校で15期生の研究グループ“ラメール”が「マイクロプラスチックによる海洋汚染」をテーマに発表し、発表後の質疑応答、意見交換も活発に行い交流を深めた。

(5) ボランティア活動の拡がり

SGSでは従来からボランティア活動に積極的に取り組んでおり、卒業後も継続して活動している方々が少なくない。コウノトリ米の共同購入を通じた有機農業農家の支援はSGS・OBの皆様の協力も得て継続して成果を挙げている。農家の主婦が主体となって地域づくりに取り組む“大屋町ごちそう祭り”は2018年に台風接近による中止があった。2020年には主催元の大屋ごちそうの会から規模の縮小に伴い支援遠慮の申し出があり、今に至っている。

しあわせ農園での農業支援は保田 茂学長のご指導を頂きながら多数の在校生が参加して野菜作りに汗を流している。最近では福祉施設の人たちの活動の場としても活用されるようになり、農福連携の実践にも協力している。

健康福祉コース出身の15期生・島村千恵子氏はSGS入学後2017年7月に「みんなの食堂・なかみちこみち」を立ち上げた。子供だけでなく、一人暮らしの高齢者など行き場のない人たちの受け皿を意識した活動の場にSGSの仲間や神戸市シルバーカレッジの卒業生が支援に集まり、ス

スタッフは50名にも及ぶ。既に5年を経過し、当初は月に1回の開催だったものが現在は2回に増えている。2020年1月からは小学生を対象とした英語学習支援もスタートした。

(6) 新型コロナ感染症の影響

この10年間で最も大きな出来事は新型コロナ感染症である。中国武漢で感染が確認された後、2020年始めには日本でも感染者が確認され、2023年の現在でも未だ地球規模での感染が収まらない。当初はウイルスの特徴や対処方法が分からず不安の中での生活を余儀なくされ、SGSの活動も大きな制約を受けることになった。

日本政府は2020年1月末に新型肺炎を指定感染症に指定し、3月には「新型インフルエンザ等対策特別措置法改正案」が成立し、世界保健機構（WHO）は世界的な流行を意味する「パンデミック」を認定した。この過程でも感染者が急増した。兵庫県でも2020年3月1日に、西宮市に住む40代男性が感染者第1号として確認された。

このような中で、政府から対応方針が示され、神戸市は2020年2月28日に「新型コロナウイルス感染症対策における神戸市における対応方針」を発表した。子供たちを新型コロナ感染症から守ることを主眼としたものであるが、同時に「特に重症化するリスクの高い高齢者等が集まる施設や場所については、市の方針を踏まえた対応を要請する」とされ、多くの公共施設が閉館・閉園された。

SGSでも神戸市シルバーカレッジの対応などを参考に神戸市の対応方針に沿うべく、保田茂学長と相談し下記の対応を決め在校生に向けて理事長名でレターを配信した。

- ・講義の中止：3月4日学長講義、3月18日副学長講義を中止
- ・メールでの理事会実施：3月18日理事会をメールで実施
- ・卒業式・修了式の簡素化：3月25日卒業式・修了式の参加者限定、式後の歓送会中止
- ・3月26日新入生入学説明会の時短実施

その後も感染は拡大し、4月7日には兵庫県を含む7都府県を対象に緊急事態宣言が発出され、外出自粛や施設使用停止が要請された。4月17日には対象が全国に拡大され、期間も当初の5月7日までが5月20日過ぎまで延長された。その後も感染者が増加するたびに緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が繰り返し発出された。このため、SGSも以下の都度対応を余儀なくされた。

2020年	4月1日	入学式の簡素化、歓迎昼食会の中止
	4月15日	年次総会・理事会をネットで実施
	5月13日	学長講義中止 ⇒ 8月26日（合同授業）に振替
	5月27日	グループ研究中間報告中止 ⇒ 同上
	6月24日	日帰り研修中止（事前準備が出来なかったため）
	11月18日	一泊研修を日帰り研修に変更して実施（淡路島北部）
2021年	5月12日	学長講義中止 ⇒ 8月26日（合同授業）に振替
	5月26日	グループ研究中間報告中止 ⇒ 同上
	6月23日	日帰り研修中止（感染状況悪化の為）

このような中で、SGS在校生は保田茂学長から感染症に罹る前の抵抗力や罹った後の免疫力について、講義や講義前の前置きで様々にご教示頂いた。免疫力を高める方法は学長講義の概要を参照されたい。罹らないためには、帰宅したら、①顔を洗う ②鼻をかむ ③うがいをする ④寝る前に歯磨きをする という簡単なもので、お陰様で大過なくSGSの活動を維持できている。